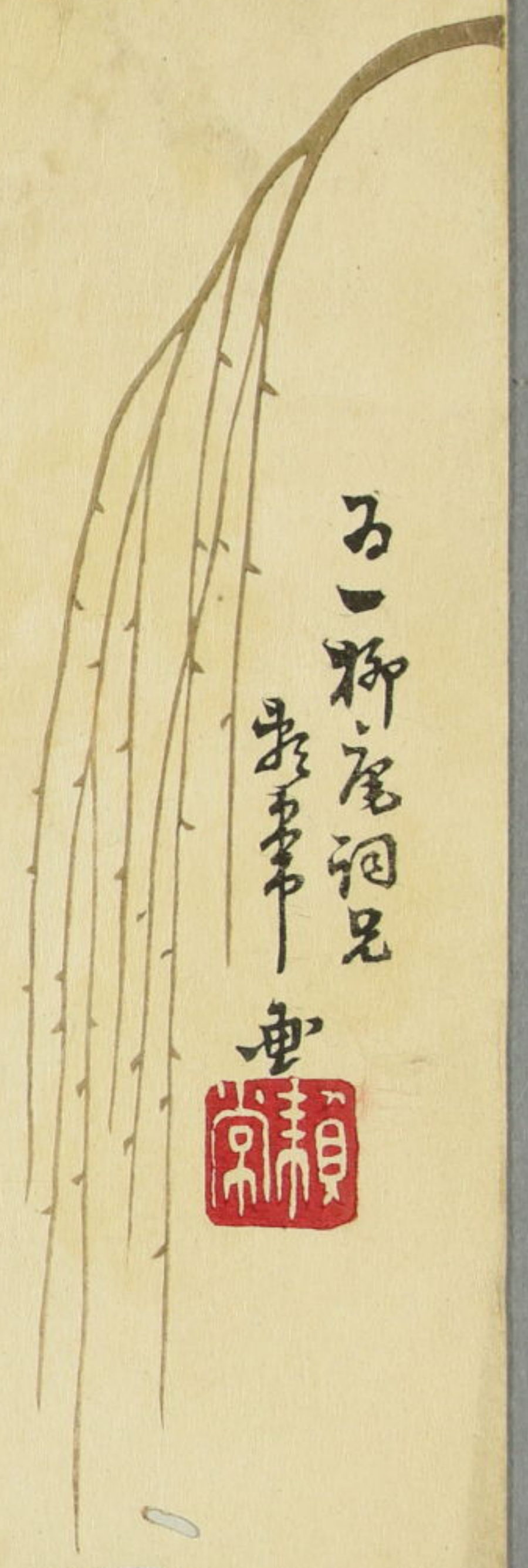


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90 1 2 3 4 5 6 7 8 9 100 1 2 3

万一柳屋洞兄

新書一冊



一柳屋の園は極楽を彷彿とせしむる
思ふにやうなあり人の苦茶山光堂の秘蔵
の西遊記此柳の枝を以て聖せしむる

又一枚を乞ひて庭月を以てあつて

地はまろくおろしよさのえよは柳

春風ふくぬりうはくしき空

猿引の色の小袖と里山

待よ松をくめまはなま

磯あやの遠き月をまらめ

料りあはまよ薑を穿ち

交すつりまも屏風のわき林

福をうへまちあつて坂の

千午よつて帯に紋麻のめ

ちの押襟はゆもとくぬ

つやう花をまら海老の

まや板橋はあきしき

船路の春もやうくあ

あ福はまらぬや木のうつ

春の梅月の柳のまら

黄もや新もまらありあ

過市はや瀬ありまら余空

松結まらまらまらやまの

ま柳のまらまらまら

一本は松を庭のまら

新書

庭月

春

月

春

月

春

月

春

月

春

申書

